

11月 20日



健康まつり

ひのたいしんぶん

昭和63年 11月13日 発行
「ひのたいしんぶん」発行部

健康まつりが十一月二十日日野台四丁目の地区センターで行われます。衛生会日野台診療所と衛生会協力が共催する、多くのみなさん、日野台診療所にかかっているひと、また、かかっているひと、健康なまちづくりをとともに考え、交流する「まつり」です。とくに、今年は、「食卓やくらしからみなおす健康づくり」をテーマに日常の生活のなかにある健康についてのいろいろな事について懇談会をひらき、医療機関の人もふくめ、ひさをまじえて交流する企画が中心です。懇談会は、五つのコーナー（1）歯科教室（2）在宅医療のコーナー（3）医療福祉のコーナー（4）味付けのコーナー（5）女性のひろば（婦人科のコーナー）でひらかれます。講師のかたには、東京民医連の伊藤 淳氏をはじめ、立川第一相互病院、立川相互病院婦人科、立川相互歯科の協力をえまして、ケースワーカーの伊藤 徳氏、立川 輝彦先生、石原 典子先生、栄養士の若森 美智恵さんにおねがいします。このコーナーでは、その点をとりあげます。

かんがえる会です。日頃、診察室では、あわただしくて聞けないこと、日頃、気にはなっているのだけれどなかなか忙しくて聞きたいと思っていたことなど、話し合いたしましょう。

伊藤 淳さん講演

健康まつり、在宅医療のコーナーの講師は、東京民医連の伊藤 淳さんです。伊藤さんは、今年の五月医療従事者の「アメリカ医療調査団」の一員として参加され「重症・アメリカ医療の最前線 切り売りされるいのち」という本の出版者のひとりです。今日、在宅医療の分野では、患者、介護者、医療機関それぞれに問題を抱えています。このコーナーでは、その点をとりあげます。

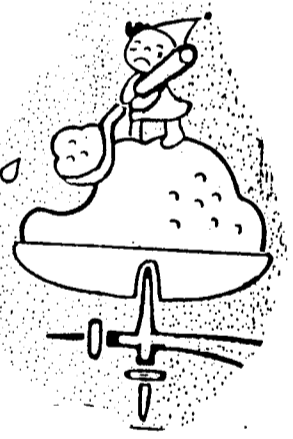
協会の

会員の皆様に

協力会日野支部では、十月二十日日野台四丁目 地区センターにおいて「日野台健康まつり」を日野台診療所との共催のもとにひらきます。健康についての要求は、多様でかつ、根強いものがあります。今年の「健康まつり」は、医療機関の専門家をまじえて地域の人、会員同士の交流の場としての懇談会を中心とした企画です。ひとつつ

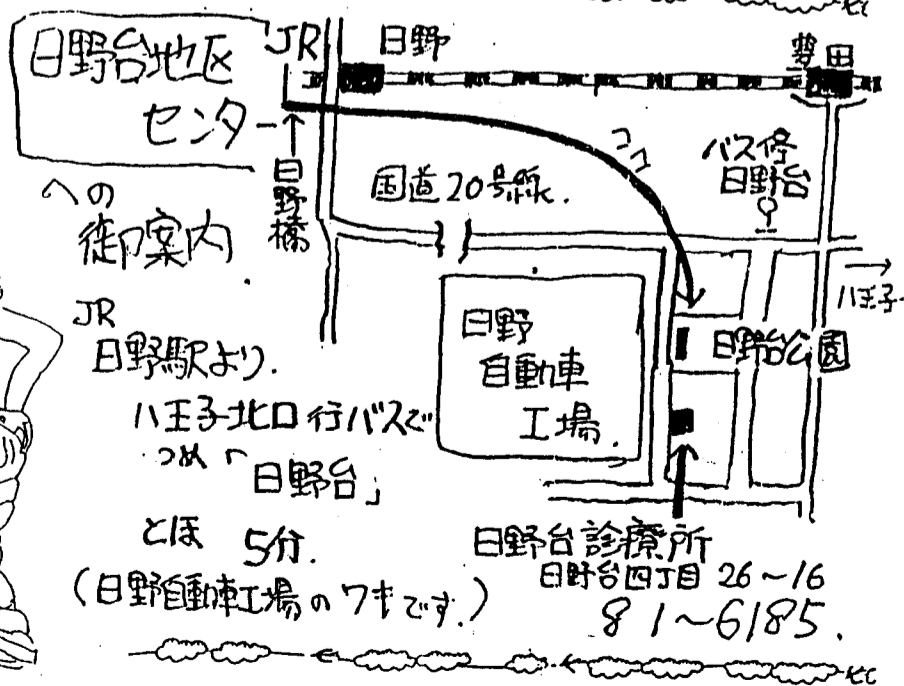
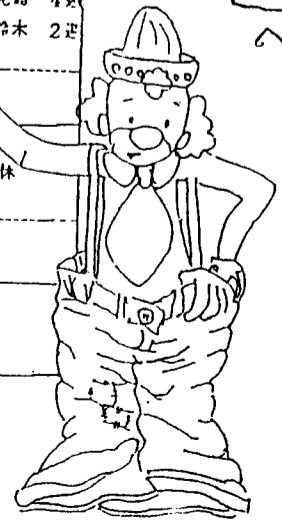
ひとつの懇談会で日頃より健康について考えていること、聞きたいとおもっていたことなどはなしあい、食事や体操、医療保障制度など、日常的な健康づくりに役立つものにと考えています。詳しくは、プログラムを御覧ください。とくに立川相互病院などの院所へ入会された方は、日野台での活動になじみがないかもしれませんが、この機会に参加されますようにお願いします。なお、会費未納の方は、会場にて、是非お納めください。

会場は、下記のとおりです。詳しくは、日野支部事務局 八戸まで御連絡ください。
連絡先 電話八一ノ六一七五
当日保育所用意します。



	月	火	水	木	金	土
午後	佐々木	小林	佐々木	佐々木	宮地	1.3.5 児島 4選 鈴木 2選
午前	増田	橋夫		大石	大石	
午後	丸児橋 子防接履	丸児橋 子防接履	丸児橋 子防接履	丸児橋 子防接履		
午後	増田	橋夫	休診	大石	休診	休
午後	丸児橋 子防接履	消化器 肝臓				
午後	増田		増田		上出	
同乗						

受付時間
午前9時～12時
午後2時～4時
夜間5時～7時迄



健康だより



毎年地域別に催される一人暮らしの老人のつどいに私も十月十七日

日野社会教育センターに招待されました。ボランティアの方々の作られたお弁当を頂きました。塩分控え目の老人むきの数々の手のかけた美味しいお料理でした。大正琴の演奏、社教センターの中能さんのマジックを披露してくださいました。そのみことな手さばき

の朗読も聞かせて頂きました。一人一人の事情の異なる方達のつどいでしたかみなさん楽しそうでした。集ったなかで男性の方は二人でしたが老人の一人暮らしというところが

か侘しさを想像されますが皆さん明るくお元気でした。現代は人生八十年といわれますが人によって百歳を越す方もいられます。お互いに先ず健康に留意して、すべての事に感謝の心で前向きに明るく元気で暮らしたいとおもいます。

日野市は、革新市政であり、老人福祉もすすんでおり老人にとって誠に幸甚な、すみよい市だと思えました。因に日野市の人口十五万八千人世帯数五万九千六百五十四世帯、一人暮らし老人四百人。福祉事業団による給食を受けているひと八十七人（食事の支度の不自

由な方）実費して一食四百円だそうです。御望の方は市役所内の福祉事業団申し込まれるとよろしいかと思ます。

伊木さんの温泉めぐり

愛してい

信州の懐の郷

「鹿務温泉」この温泉、四方山に囲まれた療養本意の温泉であります。往時文殊蓋が鹿に化身し日頃正直な獬廌をいてこの出湯を教えられたる由により「鹿教湯温泉」と名付けられたそうです。

の仙境療施設の完備した大病院、豊富湯、安い宿泊費により

り昭和三十年厚生省指定の国民保養温泉となりました。

効能 本泉は、無色無味無臭の塩類泉にして四十六度から五十七度です。高血圧、中風、神経痛リュウマチの名湯として全国にその名を知られ遠く北海道九州よりも慕って入浴にこられる客が多く治った方が、多いと聞いております。手足の不自由な方に最適です。

手足の不自由な方の運動には鹿教湯二十一番名所めぐりの散歩が楽しいめ次第次第に身体の悪い方が良くなっていくと聞き及んでいます。

結び 是非皆様にお出かけ下さるよう鹿教湯温泉の愛好者の一人としてお推し申し上げます。程久保在住 沢木 幸太郎

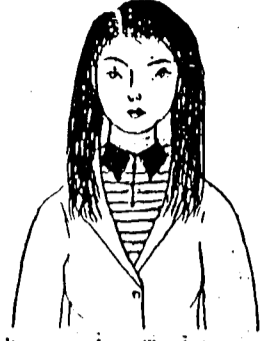
大石先生とヨーロッパ



今夏七月十二日より七月十九日まで一週間のヨーロッパの旅であったが平素の運動不足もあって、少々しんどい旅であった。ソビエトの印象は何よりも大きい国であることにおどろいた。空港についた時の第一印象は何となく暗い感じがした。資本主義の国のごとくはなだかないな義の国のごとくはなだかないなためと思うが。しかし現在の日本のごとく家をもつにも余りにも高い地価でサラリーマンには一生かかってもなかなか土地付の家を持つのも困難な状態などのことを考えると、住居も保障され、無料で医療をうける権利が保障されている社会主義の国がうらやましい気持ちにもなった。しかしモスクワで街を歩いていて我々の胸ポケットにさして近寄ってき

てドルをほしがったりする通行人がいたりするのは、なんだかいやな気持ちがあった。市民生活に何か不足しているのでは、と思わせられた。見学した医療施設は子供の精神疾患を主として扱う施設で外観の美しさはなかったが女医さんが所長として働いていた。子供が母親の腹にいるときからその健康状態を管理するために婦人科も併設していること、でいきとどいた点に感心もさせられた。スウェーデンのヘルシンキで老人の施設をみたが明るさという点では、社会主義国の施設にまさっている。社会主義国の市民生活の中にはいつてみなければ、なかなかその国のよさというものは、分からないものかもしれない。以上不備な文章で今度のヨーロッパ旅行記をおわります。

スポット



先月の十七日より、病気でお休みの榊島さんかわりとして、この日野台診療所でもおに受付として働くことになりました重光です。今まで保険請求事務の経験は、少しあったのですが、受付の仕事は始めてです。

で、正直まごつくことが多く、きっと皆さんをイライラさせてしまっていることと思います。出来るだけ早く皆さんに迷惑をおかけしないよう頑張りたいと思しますのでどうぞよろしくお願ひします。

患者さんの方を信頼し、今どきこんな勝負みのある医療機関もあつたのかと心算している次第です。私も少しでも皆さんのお役に立てたらとおもっています。最後にになりましたが少しばかり自己紹介をさせていただきます。生ま

週間程になりますが、まず感じたことは、この診療所が地域に密着した医療を行っているということ。職員の皆さんすべてがほとんどの患者さんの顔、名前はもちろん、病気の細かな点もすべてよく承知して、きめ細かな対応をされていて、また

こんな私です。どうぞよろしくおねがいします。